

まくタネは3つぶ ～自然を活かした野菜づくり～

12 つくる責任
つくり責任

15 畑の豊かさを
つくる

まくタネは3つぶ、それは共生のため。「3つぶのうち1つぶは発芽しなくてもいいよ、1つぶは鳥や虫が食べてもいいよ、最後の1つぶはわたし(人間)にください。」という気持ちで野菜を育てる自然農。
自然の恵みや生物多様性を身近に感じる自然農の学びの場「畑の寺子屋」を主宰しているそーやん(橋口創也さん)にお話を聞いてみました。

土を耕さないことにはメリットがあるよ。
土を耕すと土中の微生物が有機物をどんどん分解して、一時的に野菜が良く育つけどその後の土は栄養が少なくなってしまう。
耕さない土は、根が張ることで土がやわらかくなるよ。

根の先には微生物が菌糸をはたして、遠くから栄養を集めてくれる大切な役割がある。だから雑草も野菜も、根は土に残したままにして、微生物を大切にしているよ。

コンパニオンプランツの関係
レタス(キク科)と白菜(アブラナ科)を近くに植えて、互いの害虫をよせつけないようにしているよ!

ニラは、根のまわりの微生物が天然の抗生物質を生成するので、害虫や病気よけになるよ。

水やりは基本的に雨だけ。
水をやらないで育てると野菜はそれに耐えられるように育つよ。

雑草は刈ったら上に重ねる土づくり。
雑草だけでなく、そこにいる虫や微生物の死骸や排泄物が土を豊かにしてくれるよ。また草を重ねることで水分の蒸発を防ぎ、土が乾燥しないようにしているよ。

虫によって好きな雑草はそれぞれ。
いろんな草を残すことは、いろんな虫を残すこと。害虫もいるけどその天敵もいる状態が理想。

そーやんの畑づくりの特徴

- ・暮らしのための畑なので小規模でOK!
- ・その土地の雑草で土づくり
- ・いろんな雑草で多様な環境をつくる
- ・野菜の組み合わせを考える
- ・水やりはしない

自然農とは

無農薬・無肥料・不耕起(耕さない)で栽培する川口由一氏が体系化した農業のあり方のひとつ。
そこに暮らす草や虫、微生物や菌類が土をやわらかくより豊かにするなど、環境負荷の少ない持続可能な農法。

「畑の寺子屋」参加者のこえ

- こんな小さな種から本当に芽が出るのかな?とおそろおそろしてたけど、芽が出たときは感動しました。
- 自然農では雑草も野菜も根を抜かずに残すということが衝撃でした。
- 雑草の下のフカフカの土が、耕さないのにフカフカなのは雑草のおかげ?!?だと知った時は驚きました。
- 苗まで育つのに手間も時間もかかると改めて実感しました。
- 手をかけて育てた葉物野菜が虫に食われていたのは残念でしたが、たくさん虫がいるのも土が健康だからだと思うと嬉しくもあります。
- 化学肥料や農薬を使わないことも、環境を損なうことなく自然とつながっていると感じる魅力のひとつ。
- 家庭菜園の魅力は癒し。自分のペースで体を動かして汗を流し、自分や家族が食べるためのものを育てていると思うと嬉しくなる。



暮らしの畑屋のおと

はしぐち そーや
代表 **橋口 創也** さん
(そーやん)

プロフィール

1985年有機農家の長男として生まれる。
農家にだけいなるまいと思っていたが、ドイツ留学時に最先端の有機農業学を学ぶことなどをきっかけに農家の道へ。2011年に故郷鹿児島で就農。
その後野菜を売らない農家に転向し、自然の仕組みを利用した小さくて可愛い循環型菜園の作り方を伝え、暮らしを豊かにする畑づくりを提案している。
2020年YouTube「畑は小さな大自然!そーやん」を開設。雑草や虫を活かした常識を覆すような畑づくりに注目が集まり、チャンネル登録者4万人越え(2022年1月現在)。



▲YouTube
「畑は小さな大自然!そーやん」

そーやんへのインタビュー

Q.土が豊かになってどうしているの?

A. 土の中には不思議な世界が広がっています。うちの畑の土を調べてもらうと、たった1gの土の中に23億匹の微生物がいました。それらの微生物は糸のようにつながり合い、その中で情報のやりとりや栄養の交換を行うそうです。
その仕組みを生かすように畑づくりをしていくと、畑の地下でまさにインターネットのように数億の情報がつながりあう世界が築かれていきます。そこにひとつの生態系が築かれ、その生態系の中のひとつとして野菜も育ちます。

Q.畑づくりはどうしているの?

A. 畑は、完全に人工的な環境で作るわけではないので、その土地がどんな成り立ちで生まれたのか、どんな生き物が住んでいるのか、どんな雑草が生えるのかということが畑づくりの土台になってきます。
雑草にも虫にもさまざまな種類があって、それぞれ野菜と相性が良いものもあれば悪いものもあつたりなど多様な関係性があります。その関係性やつながりが深まっていく中で、次第に豊かで活気のあるコミュニティが作られていきます。人間社会も同様で人もつながりのない寂しい環境では心地よく暮らせないですよ。そういう意味で畑づくりは野菜と周囲の自然のつながりをデザインしていくことだといえるかもしれません。

Q.自然農での家庭菜園の魅力は?

A. 自然農の魅力は、なんと言っても自然を使って自然と一緒に遊べる場所。山や海はすでにある自然環境の中で遊ぶだけで、自分でその環境を変えたりはできません。自然農では、小さな自然空間を自分で築くことができます。しかもその素材たちは生きてるので、常に変化し、想像もしていなかったような姿を見せてくれたり、日々いろんな発見をもたらしてくれます。